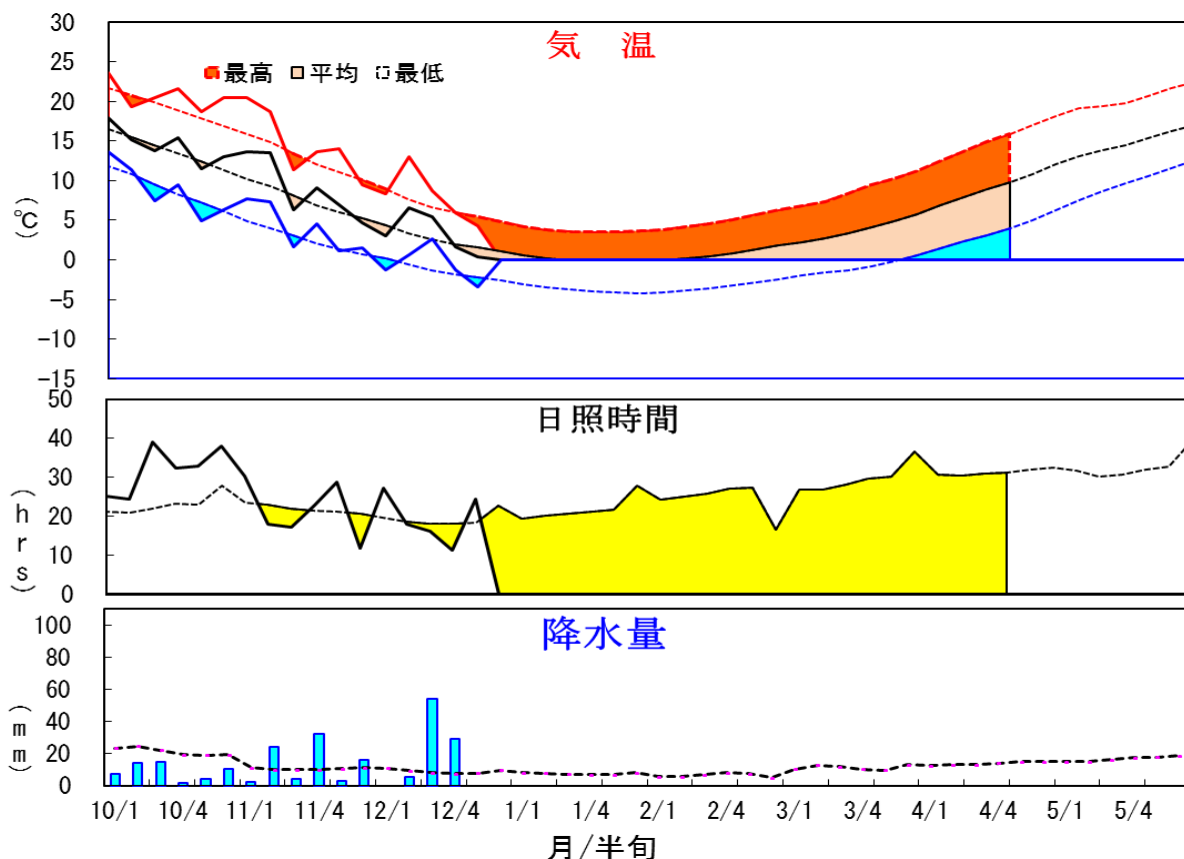


麦作情報第2号

令和5年12月26日：JA全農みやぎ

～播種期の好天に恵まれ 適期播種は越冬前生育量を確保！～

1 これまでの気象経過



2 東北地方の1か月予報【12月23日～1月22日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。2週目は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 60%、平年並みの確率 30%、低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 30%、少ない確率 40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率 30%、平年並みの確率 40%。

気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 12/23～01/22	10% (低) 30% (平) 60% (高)
		1週目 12/23～12/29	30% (低) 50% (平) 20% (高)
		2週目 12/30～01/05	10% (低) 10% (平) 80% (高)
		3～4週目 01/06～01/19	20% (低) 40% (平) 40% (高)
降水量	東北地方	向こう1か月 12/23～01/22	40% (低) 30% (平) 30% (高)
日照時間	東北地方	向こう1か月 12/23～01/22	30% (低) 40% (平) 30% (高)
降雪量	東北日本海側	向こう1か月 12/23～01/22	60% (低) 30% (平) 10% (高)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 宮城県の令和5年産麦類の検査結果（農林水産省 HP よりデータ引用）

(1) 検査結果等

- ・本県の麦類生産量（検査数量）は、小麦・大麦とも年間4,000t 余りである。
- ・検査等級比率は、令和元年から4年までの平均値で見ると、小麦では「シラネコムギ」及び「夏黄金」では1等比率が高いが、「あおばの恋」及び「銀河のちから」は2等比率が高い。大麦は、全品種で2等比率が高い。
- ・5年産は、小麦・大麦とも2等比率が高く、格付理由（落等要因）は「形質」（未熟粒，細麦等）が多かった。また、一部では、刈り遅れによる「退色粒」も見られた。

【小麦】

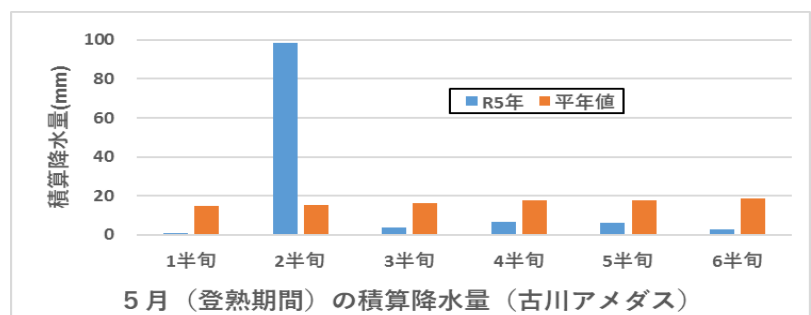
品種名	年産	検査数量 (t)	等級数量 (t)			等級比率 (%)		
			1等	2等	規格外	1等	2等	規格外
あおばの恋	R5年産	279	135	116	28	48.4	41.6	10.0
	R4年産	300	176	102	21	58.7	34.1	7.1
	R1-R4平均	417	123	237	57	35.3	52.7	12.1
銀河のちから	R5年産	97	-	90	7	-	92.8	7.2
	R4年産	53	43	2	7	82.4	3.8	13.8
	R1-R4平均	47	43	33	6	20.6	73.5	6.0
シラネコムギ	R5年産	2,155	975	882	297	45.3	40.9	13.8
	R4年産	1,615	1,182	245	188	73.2	15.2	11.6
	R1-R4平均	2,204	1,447	429	329	66.1	19.2	14.7
夏黄金	R5年産	2,356	1,265	763	329	53.7	32.4	13.9
	R4年産	1,766	1,425	102	239	80.7	5.8	13.5
	R1-R4平均	1,583	1,103	249	231	70.6	14.7	14.8

【大麦】

品種名	年産	検査数量 (t)	等級数量 (t)			等級比率 (%)		
			1等	2等	規格外	1等	2等	規格外
シュンライ	R5年産	1,695	143	1,180	371	8.5	69.6	21.9
	R4年産	1,394	104	1,084	207	7.5	77.7	14.8
	R1-R4平均	1,758	142	1,305	311	7.7	74.7	17.6
ホワイトファイバー	R5年産	2,549	53	1,711	785	2.1	67.1	30.8
	R4年産	2,140	174	1,543	424	8.1	72.1	19.8
	R1-R4平均	1,429	194	978	258	16.6	65.6	17.8
ミノリムギ	R5年産	1,017	8	665	344	0.8	65.4	33.9
	R4年産	989	19	663	307	1.9	67.0	31.0
	R1-R4平均	925	103	587	236	10.6	64.1	25.3

(2) 検査結果等の要因

- ・3月からの高温の影響で、出穂期が1週間程度早まったことと、5月の降水量が第2半旬を除いて著しく少なく、高温・乾燥傾向が続いたことによるものと推測される。



4 生育状況

(1) 古川農業試験場内作況試験ほ場 (12月15日現在)

- ・中旬 (10/19) 播種区は、草丈・茎数とも平年並み～上回っており、越冬前の目標生育量は概ね確保されている。
- ・下旬 (10/31) 播種区も、草丈・茎数は平年を上回っているが、越冬前の目標生育量 (茎数) はやや不足している。
- ・10月中旬～11月第1半旬は降水量が少なく、適期に播種できたところが多い。
- ・越冬前の目標生育量は、概ね確保されていると思われる。

	品種・区分	草丈		茎数		葉数		幼穂長	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年差 (枚)	本年 (mm)	平年差 (mm)
大麦	シュンライ 中旬	13.8	130	519	92	5.6	1.0	0.8	0.1
	同 下旬	7.8	107	298	111	3.2	0.2	0.3	0.1
	ミノリムギ中旬	14.1	124	561	100	5.2	0.5	0.5	0.0
	同 下旬	8.3	104	301	113	3.4	0.4	0.3	0.1
小麦	シラネコムギ中旬	15.8	136	661	134	5.5	0.6	0.2	0.0
	同 下旬	11.2	110	375	164	3.5	0.2	0.1	0.0
	夏黄金 中旬	12.5	114	530	145	5.3	0.5	0.2	0.0
	同 下旬	8.8	105	281	137	3.3	0.2	0.1	0.0

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 越冬前目標生育量: 葉数4～5枚、分けつ1～2本、茎数400～500本/m²。

注4) 幼穂形成始期: 幼穂長が1mmに達した日。



【作況 シュンライ 10月19日播種】



【作況 ミノリムギ 10月19日播種】



【作況 シラネコムギ 10月19日播種】



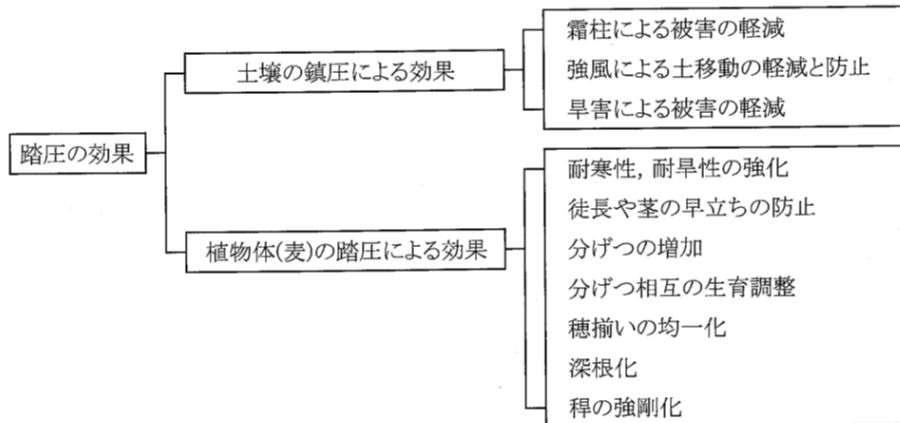
【作況 夏黄金 10月19日播種】

5 今後の技術対策

(1) 排水対策

- ◆分げつ期の湿害は、生育抑制や分げつの減少につながる。
- ・ほ場が排水不良になると、霜柱によって根が浮き上がり、麦が枯死することもある。
- ・明渠の設置は5 m間隔で、深さは20~30cmが望ましい。
- ・播種が遅かったり、鳥害の影響を受けて生育が遅れているほ場では茎数不足となり、被害が大きくなるので早急に改善する。

(2) 麦踏み



- ◆効果：霜柱による根の浮き上り防止，風による土移動の軽減・防止，麦の耐寒性の強化，分げつの増加，徒長防止，など，上記に示すような効果が期待できる。
- ・実施時期及び回数を目安は，離乳期（3~4葉期）から茎立ち（主稈長2 cm，幼穂長2 mm程度）までである。越冬後の実施回数は，1~2回を目安とする。
- ・留意点：粘土質土壌では，土壌湿度が高いと逆効果になるので，土が乾いている時に実施する。

(3) 追肥

- ・融雪後は，越冬後の生育量を確保する追肥が重要になる。
- ・幼穂形成期の追肥は有効茎歩合を向上させ，穂数を確保する。幼穂長が2~3 mmの時が目安で，この頃から茎立ちし，幼穂や節間の伸長が急激に進む。
- ・幼穂形成期頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招くが，窒素を過剰に施用すると節間伸長により倒伏の原因となるので，適期・適量施用に努める。
- ・追肥時期が遅れると，効果が十分に得られないので，幼穂長を確認し適期に実施する。

追肥の種類 (生育ステージ)		株直し追肥 (融雪後)	幼穂形成期 (幼穂長2~3 mm)	減数分裂期 (幼穂長30 mm)	穂揃期 (8~9割が出穂)
目的		茎数の増加 葉色の回復	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大麦	時期	2月	2月下旬~3月中旬	4月下旬	硬質麦防止のため 実施しない
	時期		3月上旬~4月上旬	4月下旬~5月上旬	
10a当たり 施用量		窒素成分1~2 kg (硫安5~10 kg)	窒素成分2~2.5 kg (硫安10~12 kg)	窒素成分2~2.5 kg (硫安10~12 kg)	
小麦	時期	2月	3月下旬~4月中旬	4月下旬~5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量	窒素成分1~2 kg (硫安5~10 kg)	窒素成分2~2.5 kg (硫安10~12 kg)	窒素成分4~5 kg (硫安20~25 kg)	窒素成分2~2.5 kg (硫安10~12 kg) ※「夏黄金」は2倍